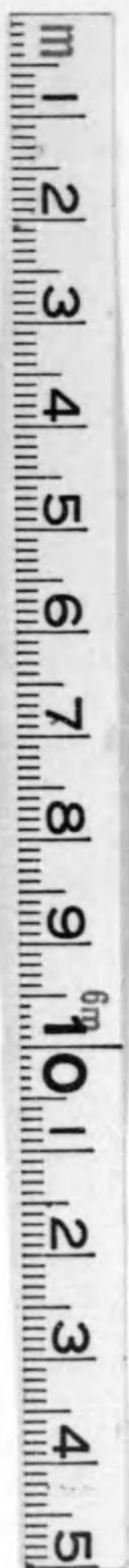


1 4.24

325



始



14,21
J25

大正三年五月

大正二年度業務功程

茨城縣立農事試驗場

14.2.1-325



大正二一年度業務功程目次

第一 試驗

(一) 水稻

耕種梗概

- 一、品種試驗
- 二、品種豫備試驗
- 三、豐凶考照試驗
- 四、肥料配合法試驗
- 五、石灰加用試驗
- 六、株數試驗
- 七、石灰窒素施用試驗
- 八、窒素質肥料試驗
- 九、能登特產石灰効力試驗
- 十、堆肥効力試驗
- 十一、在來肥料試驗
- 十二、直播移植比較試驗
- 十三、直播期并二施肥法試驗
- 十四、直播除草回数試驗
- 十五、肥効殘否試驗

一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 一 二 三 四

(二) 陸稻

耕種梗概

(三) 麥

耕種梗概

- 一、品種試驗
- 二、品種豫備試驗
- 三、播種期對播種量試驗
- 四、播種期對肥料用量試驗
- 五、畦幅對播種量試驗
- 六、畦幅對肥料用量試驗
- 七、株間對肥料用量試驗
- 八、耕耘深淺對肥料用量試驗
- 九、土入回数試驗
- 十、石灰窒素施用試驗

一 四 五 六 七 八 九 一 二 三 四 五 六 七 八 九 一 二 三 四



- 十一、石灰窒素配合法試驗 二六
- 十二、石灰窒素用量試驗 二六
- 十三、大豆粕用量試驗 二六
- 十四、配合肥料效能比較試驗 二七
- 十五、肥料反應ニ關スル試驗 二七
- (四) 大豆
 - 耕種梗概 二八
 - 一、品種試驗 二九
 - 二、連作試驗 三〇
 - 三、肥料用量對播種量試驗 三〇
 - 四、播種期對播種量試驗 三一
 - 五、糞灰用量試驗 三一
 - 六、石灰施用試驗 三一
 - 七、畦幅對播種量試驗 三二
 - 八、小豆品種試驗 三二
 - (六) 甘 藷
 - 一、品種試驗 三三
 - 二、肥料配合法試驗 三三
 - (七) 蒟蒻病害豫防試驗 三五
 - (八) 水稻裏作 三六

- 一、大麥品種試驗 三六
- 二、大麥肥料試驗 三七
- 三、油菜肥料試驗 三八
- 四、馬鈴薯肥料配合法試驗 三八
- 五、紫雲英施肥期試驗 三八
- 六、苜蓿播種法試驗 三九
- 七、豌豆及蠶豆肥料試驗 三九
- 八、大豆播種量試驗 四〇
- (九) 蔬 菜
 - 一、茄 子 四〇
 - 二、胡 瓜 四〇
 - 三、胡 瓜 四〇
 - 四、品種試驗 四〇
 - 五、剪枝試驗 四〇
 - 六、肥料配合法試驗 四〇
 - 七、蕃 茄 四一
 - 八、品種試驗 四一
 - 九、整枝法試驗 四一
 - 十、整枝法試驗 四二
 - 十一、肥料配合法試驗 四二

- 四、甜瓜品種試驗 四三
- 五、南 瓜 四三
- 一、品種試驗 四三
- 口、農商務省園藝試驗場委囑南瓜品種試驗 四三
- 二、肥料配合法試驗 四三
- 六、西瓜品種試驗 四三
- 七、菜豆品種試驗 四四
- 八、菜豆品種試驗 四四
- 九、甘 藍 四四
- 一、秋播甘藍品種試驗 四五
- 二、假植回數試驗 四五
- 三、定植期試驗 四五
- 四、磷酸成分增減試驗 四五
- 五、春播甘藍品種試驗 四六
- 六、瓜 哇 薯 四六
- 一、品種試驗 四六
- 二、除藥試驗 四六
- 三、牛蒡品種試驗 四六
- 四、芋 四七

- 一、品種試驗 四七
- 口、直植對移植試驗 四七
- 十三、玉蜀黍品種試驗 四七
- 十四、落花生品種試驗 四八
- 十五、葱 (春播) 四八
- 一、品種試驗 四八
- 口、株間廣狹對栽植本數試驗 四八
- 八、剪根試驗 四九
- 十六、胡蘿蔔 四九
- 一、品種試驗 四九
- 口、窒素成分增減試驗 四九
- 十七、蘿 蔔 五〇
- 一、品種試驗 五〇
- 口、下葉摘除試驗 五〇
- 八、煮食用一要素多量試驗 五〇
- 二、澤庵用蘿蔔肥料配合法試驗 五一
- 十八、蕪 菁 五一
- 一、品種試驗 五一
- 口、搔土試驗 五一
- 八、一要素多量試驗 五二



大正二年度業務功程

第一試驗

(一) 水稻

耕種梗概

苗代

- 一、整地 稻收穫後三回耕起シ幅四尺ノ短冊形・ナシ周縁ニハ底幅五寸高サ四寸ノ小畦ヲ造リ其間ニ幅一尺ノ踏切ヲ設ケタリ
- 二、肥料 苗代十歩ニ施用セシ肥料
 - 人糞尿 五貫 匁 大豆粕 八百四十匁
 - 精過磷酸 百七十三匁 糞 灰 一貫三百六十匁
- 三、選種及浸種 種子ハ鹽水選ヲナシ晝夜清水ニ浸セリ
- 四、播種期 早稻ハ四月廿五日中午中稻ハ四月卅日ニ播種セリ

十九、苾菜品種試驗 五二
 二十、結球白菜 五二
 イ、品種試驗 五二
 ロ、追肥回数對施肥期試驗 五三
 ハ、直播對移植試驗 五三
 ニ、肥料配合法試驗 五三
 ホ、病害豫防法試驗 五三
 ヘ、肥料反應試驗 五四
 二十一、菠薐草品種試驗 五四
 二十二、蠶豆品種試驗 五四
 二十三、草莓品種試驗 五五

第二、水稻原々種栽培 五五
 第三、麥採種場 五六
 第四、果樹栽培試驗 五七
 第五、調查 六〇
 稻ノ二化螟虫ニ關スル調査 六〇
 水稻減收原因調査 六二
 特種作物調査 六二
 第六、講習 六二

(二)(一) 普通農事講習 六二
 園藝講習 六三
 第七、野鼠驅除 六四
 第八、種苗配付 六五
 第九、分拆 六六
 分拆件數及成分數 六六
 供試品ノ種類及件數 六七
 肥料ノ種數及件數 六七
 第十、雜 六八
 印刷物配付 六八
 文書往復 六九
 場員出張 六九
 質問應答 七〇
 參觀人 七〇
 練習生 七〇
 職員 七一

(三)(二)(一) 印刷物配付 六八
 文書往復 六九
 場員出張 六九
 質問應答 七〇
 參觀人 七〇
 練習生 七〇
 職員 七一
 (七)(六)(五)(四)(三)(二)(一) 印刷物配付 六八
 文書往復 六九
 場員出張 六九
 質問應答 七〇
 參觀人 七〇
 練習生 七〇
 職員 七一

五、播種量 苗代一步ニ付大粒種ハ四合小粒種ハ三合ヲ標準トセリ
 六、害虫驅除 苗代五畝歩ニ對シ誘蛾燈一個ノ割合ヲ以テ苗代ヨリ一間位ヲ隔テ葉先ヨリ約一尺ノ高サニ點火誘殺ヲ行ヒ且ツ時々苗代ヲ巡視シ卵塊ノ採取ヲ行ヒタリ

本田

一、肥料 本田一反歩ニ施用セシ肥料

肥料名	用量	代價	窒素	磷	要	加	素
堆肥	100,000	2,000	1,160	600	1,000		
大豆粕	17,000	3,740	1,190	255	340		
精過燐酸	4,500	630	—	900	—		
計	—	6,370	2,350	1,755	1,340		

備考 前表中堆肥ハ第三回耕起ノ際施シ其他ハ插秧當日全量ヲ施セリ

二、一步ノ株數及一株ノ本數

早中晩	縱株間	橫株間	一步ノ株數	一株ノ本數
早稻	75.0	75.0	64	8
中稻	75.0	85.7	56	6
晩稻	85.7	85.7	49	4

三、插秧 早稻六月五日、中稻六月十日

四、除草 草 植付後二週間ヲ經タル頃蟹爪ヲ用ヒテ一番除草ヲ行ヒ其後一週間毎ニ除草三回行ヒタリ

五、害虫驅除 三反歩ニ一個ノ割合ニ誘蛾燈ヲ點ジテ蛾ヲ誘殺シ又被害莖ヲ切り取りテ燒却セリ

六、收穫 穂首ノ黄變シタル時刈リ取りテ稻架ニ懸ケ充分乾燥シタル後扱キ落シ更ニ晴天ノ日ヲ選ビ蓆ニ擴ゲ二日間乾燥シテ糶摺ヲナセリ

一、品種試驗

本試驗ハ豫備試驗ニ於テ優良ト認メタル品種ヲ栽培シ收量品質等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントス
 ルモノニシテ粳二十七種糯四種ニ就キ試驗シタル結果粳ニアリテ二石以上糯ニアリテ一石七斗以上ノ收量アリシモノ次ノ如シ

品種名	種子取寄先	成熟期	收量	品質
信州金子メ愛國	畿内支塲	十月二十四日	二石三斗九升六合	稍良
玉錦	本縣那珂郡	十月二十五日	二石二斗五升七合	稍良

無芒愛國	畿内支場	十月二十四日	二石二斗四升二合	不良
勿來	當塲撰出	十月二十四日	二石一斗七升五合	良
改良玉錦	當塲撰出	十月二十四日	二石一斗五升五合	良
上總コボレ	本縣稻敷郡	九月十七日	二石一斗四升二合	不良
常豐	當塲撰出	十月十八日	二石一斗二升八合	稍良
愛國	本縣久慈郡	十月二十三日	二石六升六合	稍良

糯

品種名	種子取寄先	成熟期	收量	品質
金砂糯	本縣行方郡	十月二十四日	一石八斗一升九合	良
關取糯	神奈川縣	十月二十九日	一石七斗七升八合	良

二、品種豫備試驗

本試驗ハ多クノ品種ヲ蒐集栽培シ其優劣ヲ比較シ以テ良好ト認メタルモノヲ品種試驗ニ加ヘントス而シテ粳二十八種ニ就キ試驗シタル結果一石八斗以上ノ收量アリシモノ次ノ如シ

品種名	種子取寄先	成熟期	收量	品質
龜ノ尾	山形縣	十月四日	二石三升三合	良

常陸早稻	群馬縣	十月二日	一石九斗二升八合	不良
畿内早稻五號	畿内支場	九月二十九日	一石九斗一升一合	良
高田	本縣稻敷郡	九月二十九日	一石八斗五升九合	良
畿内早稻廿三號	畿内支場	九月二十七日	一石八斗四升八合	良
全二號	全	九月二十九日	一石八斗三升	良
信濃早稻	長野縣	九月三十日	一石八斗二升七合	最良
大塲	富山縣	九月二十九日	一石八斗二升二合	良
荒木	千葉縣	十月十八日	一石八斗一升三合	最良
畿内早稻五十八號	畿内支場	九月二十八日	一石八斗	稍良

三、豊凶考照試驗

本試驗ハ同一品種ヲ年々同地ニ栽培シ其年ニ於ケル豊凶ヲ知ラントスルニアリ而シテ早稻ニアリテハ早稻高津、常州早稻、石白、中稻ニアリテハ玉錦、荒木、關取、晚稻ニアリテハ神方、八重穗、ビツクリ、ニ就キ試驗シタル結果三種平均早稻ハ一石六斗九合、中稻ハ一石九斗七升九合、晚稻ハ一石九斗三升九合ニシテ之ヲ前年ニ比スレバ早稻ハ四分七厘弱中稻ハ七厘強晚稻ハ五分一厘強ノ減收ナリ又之ヲ前十三ヶ年平均ニ比スレバ早稻ハ五分八厘強ノ減收ナリト雖モ中稻ハ二分六厘強晚稻ハ七分二厘強ノ增收ナリ

四、肥料配合法試験 (二ヶ年繼續)

肥料ノ種類及其配合法ノ異ナルニ依リ收量ニ如何ナル差異アルカヲ知ランガ爲メ甲、乙、二トナシ甲ハ堆肥二百貫ヲ基本肥料トナシ之ニ大豆粕、鱈粕、大豆ヲ夫々配合シ尙之等ニ硫酸アンモニヤ、精過磷酸石灰及藁灰ヲ加ヒテ標準肥料ト同成分トナシ乙ハ以上各區ノ堆肥ヲ五割増トナシ中稻玉錦種ヲ以テ(特ニ品種名記載ナキモノハ何レモ玉錦ヲ用ヒタルモノナリ)試験シタル結果收量最モ多キハ甲ニアリテハ標準肥料ノ二石四斗八合乙ニアリテハ大豆ト硫酸アムモニヤヲ配合シタル二石六斗三升二合ナリ然レドモ尙試験ヲ重ネザレバ之レガ斷定ヲ下シ難シ其配合法及收量ヲ示セバ左ノ如シ

肥料名	用量	玄米收量
第一 堆肥	100,000	2,240.8
第一 大豆粕	17,000	
第一 精過磷酸	4,500	
第二 堆肥	100,000	2,319
第二 大豆粕	8,000	
第二 硫酸アンモニヤ	2,975	
第二 精過磷酸	4,750	
第二 藁灰	3,800	
第一 堆肥	300,000	2,566
第一 大豆粕	17,000	
第一 精過磷酸	6,000	
第二 堆肥	300,000	2,600
第二 大豆粕	8,500	
第二 硫酸アンモニヤ	2,975	
第二 精過磷酸	6,750	

五、石灰加用試験 (四ヶ年繼續)

堆肥ニ石灰ヲ加用シテ其効力ヲ多カラシムルニハ幾何量ノ石灰ヲ施用スベキカヲ知ランガ爲メ完熟堆肥三百貫、中熟堆肥三百八十八貫、新鮮堆肥五百十貫ニ對シ夫々石灰三十貫、四十五貫、六十貫、七十五貫ヲ加用シ試験シタル結果完熟堆肥ニアリテハ石灰加用量六十貫迄ハ次第二收量ヲ増スト雖モ七十五貫ニ至レバ稍劣リ中熟堆肥、新鮮堆肥ニアリテハ石灰ノ用量多キニ從テ收量増加スルコトヲ認メテ此試験ヲ完結セリ即左ノ如シ

肥料名	用量	玄米收量
第三 堆肥	100,000	2,134
第三 鱈粕 (元俵)	6,134	
第三 硫酸アンモニヤ	2,975	
第三 精過磷酸	3,830	
第三 藁灰	6,867	
第四 堆肥	100,000	2,161
第四 大豆	11,185	
第四 硫酸アンモニヤ	2,975	
第四 精過磷酸	4,730	
第四 藁灰	4,433	
第三 堆肥	300,000	2,479
第三 鱈粕 (元俵)	6,134	
第三 硫酸アンモニヤ	2,975	
第三 精過磷酸	6,050	
第四 堆肥	300,000	2,632
第四 大豆	11,185	
第四 硫酸アンモニヤ	2,975	
第四 精過磷酸	6,695	

石灰用量		大正二年 (昭和四年) 四ヶ年 平均收量		石灰用量		大正二年 (昭和四年) 四ヶ年 平均收量	
完全堆肥		三〇	一、八一九	三〇	一、九三九	新鮮堆肥	
四五	一、九〇八	四五	一、九七三	六〇	二、〇〇七	七五	二、〇七六
六〇	二、〇六一	六〇	二、〇〇八	七五	二、〇五五		
七五	二、〇九六	七五	二、〇九六				
中熟堆肥		三〇	一、九四七				
四五	一、九六六	四五	二、〇〇七				
六〇	二、〇三六	六〇	二、〇三二				
七五	二、一六八	七五	二、一五九				

六、株 數 試 驗 (三ヶ年繼續)

株數ノ多少ハ數量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ランガ爲メ左記方法ニヨリ試驗シタル成績次ノ如シ

第 一 第 二 第 三	一坪株數	縦 株 間	横 株 間	大正二年 反當收量	(昭和四年) 三ヶ年 平均
第 一	三	一	一	一、九七七	一、九八二
第 二	四	一	一	二、二二九	二、二二二
第 三	六	一	一	二、〇五九	二、二〇三

第 四 第 五 第 六 第 七	尺	寸	大正二年 反當收量	(昭和四年) 三ヶ年 平均
第 四	五	五	一、九六二	二、一八二
第 五	五	五	二、二二五	二、二〇九
第 六	五	五	二、〇二二	二、一九九
第 七	五	五	一、九〇二	二、〇六六

本表ノ如ク三ヶ年間ノ成績ヲ綜合スレバ四十八株ヨリ九十六株マデノ範圍ニアリテハ株數ノ多少ハ收量ニ大ナル影響ナキモノ、如シ又米ノ品質ハ殆ト其優劣ナキコトヲ認メタリ

七、石灰窒素施用法試驗 (二ヶ年繼續)

石灰窒素ノ適當ナル施用法ヲ知ランガ爲メ左記方法ニヨリ試驗セリ但石灰窒素ハ反當七貫匁ヲ施用セ

- 第一 石灰窒素ヲ移植二週間前ニ施シ置ク
- 第二 石灰窒素ヲ施スベキ堆肥ノ全量ニ混シ堆肥舍内ニ置キ移植當日施ス
- 第三 十倍ノ堆肥ニ混シ堆肥中ニ埋メ置キ移植當日施ス
- 第四 十倍ノ堆肥ニ混シ堆肥舍内ニ置キ移植當日施ス
- 第五 十倍ノ土ニ混シ堆肥舍内ニ置キ移植當日施ス

試驗成績次ノ如シ

區名	收量	區名	收量
第一	一、八〇九	第四	一、六三二
第二	一、六六二	第五	一、七六〇
第三	一、六七五		

之レニヨリテ觀レバ石灰窒素ハ移植前施シ置クヲ良シトシ土ニ混ジ置キテ移植當日施スモノ之レニ次ギ堆肥ト混ジ置クトハ不利益ナルコトヲ認メタリト雖尙試驗ヲ重シ決定セントス

八、窒素質肥料試驗 (一ヶ年)

各種ノ窒素質肥料ガ米質、收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ラントスルモノニシテ堆肥二百貫、大豆粕十七貫、精過磷酸石灰四貫五百多ヲ標準トシ大豆粕ニ代ユルニ硫酸アンモニヤ、石灰窒素、鯧粕、大豆、人糞尿ヲ以テシ其成分ノ過不足ハ精過磷酸石灰、糞灰ヲ加減シテ何レモ同成分トナシ試驗シタル結果收量最多キハ大豆區ノ二石二斗七升九合ニシテ硫酸アンモニヤ、鯧粕、大豆粕、人糞尿、石灰窒素之レニ順次シ米質ニアリテハ殆ト差異ヲ認メズ

九、能登特産石灰効力試驗 (二ヶ年繼續)

能登特産石灰ヲ普通石灰ト同價並ニ同成分ニ配合シ其効力ヲ知ラントスルモノニシテ試驗ノ結果能登産石灰ハ普通石灰ニ比シ其効力稍優レリト雖經濟上不利益ナルコトヲ認メタリ即チ左ノ如シ

同成分	大正二年收量		大正元年平均量
	能登産石灰	普通石灰	
同價	二、〇五四	二、〇七〇	二、〇六二
能登産石灰	二、〇六八	二、〇六八	二、〇六八
普通石灰	二、〇六八	二、〇六八	二、〇六八

十、堆肥効力試驗 (一ヶ年)

本試驗ハ堆肥ノ効力ヲ知ランガ爲メ堆肥二百貫、大豆粕八貫五百多、硫酸アンモニヤ二貫九百七十五多、精過磷酸四貫七百三十五多、糞灰三貫八百多ヲ標準トナシ堆肥ヲ二百五十貫、三百貫、三百五十貫、四百貫ト次第二用量ヲ増加シ堆肥ノ増加スルニ從ヒ金肥ヲ減ジテ同成分トナシ試驗シタル結果收量最多キハ堆肥三百貫ノ二石一斗二升三合ニシテ三百五十貫區、標準區、二百五十貫區、四百貫區之ニ順次セリ

十一、在來肥料試驗 (二ヶ年)

本試験ハ鰾粕、大豆、人糞尿ト夫々同成分ニ大豆粕及硫酸アムモニア精過磷酸石灰ヲ以テ配合シ米質良否及收量ノ多少ヲ比較セントスルモノニシテ試験ノ結果鰾粕區及大豆區ニアリテハ比較區(大豆粕、硫酸アムモニア、過磷酸石灰ヲ以テ配合シタルモノ)ノ收量稍劣リ人糞尿ニアリテハ比較區ノ收量優レリ而シテ品質ニアリテハ何レモ優劣ヲ認メズ

十二、直播移植比較試験 (三ヶ年)

直播ト移植トハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ランガ爲メ一ハ四月三十日本田ニ播種シ一ハ全月全日苗代ニ播種シ六月九日本田ニ移植シテ試験シタル結果直播ニアリテハ二石一斗四升二合ヲ得タリト雖モ移植ニアリテハ二石二升三合ニシテ一斗一升一合ノ差違アリ又明治四十四年ヨリ大正二年ニ至ル三ヶ年間ノ平均收量ハ移植二石一斗六升、直播二石三斗六升二合ニシテ頗ル有利ナルモノ、如キモ肥沃ナル乾田ニアリテハ稻株中ニ雜草繁茂シ稻ノ生育ヲ妨グル憂アリ要スルニ雜草ノ發生少キ天水場ニシテ用水ニ不足ヲ告ゲ其整地ニ困難ナル水田ニ施行スルハ極メテ有利ナルコト、ス

十三、直播期並ニ施肥法試験 (二ヶ年)

播種期並ニ施肥法ノ異ナルニ依リ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ランガ爲メ播種期ヲ四

月三十日五月十日五月二十日トシ更ニ各區ヲ二ツニ分チ一ハ肥料ノ全量ヲ元肥トナシ他ハ堆肥ヲ除クノ外之ヲ二分シ半量ヲ元肥半量ヲ追肥トシテ試験シタル結果播種期ニ於テハ遅ル、ニ從テ收量ヲ減シ施肥法ハ四月三十日播ニアリテハ半量元肥半量追肥區優リ五月十日播五月二十日播ニアリテハ全量元肥區優レリ即チ左ノ如シ

試 驗 區 別	收 量
四月三十日播 全 量 元 肥	二石三斗二升二合
半量元肥半量追肥	二石四斗一升二合
五月十日播 全 量 元 肥	一石八斗二升七合
半量元肥半量追肥	一石五斗七升八合
五月二十日播 全 量 元 肥	一石六斗一升七合
半量元肥半量追肥	一石五斗八升一合

十四、直播除草回数試験 (二ヶ年)

直播ニ於ケル除草回数ハ收量ニ如何ナル關係ヲ有スルモノナルカラ知ランガ爲メ除草回数ヲ二回、三回、四回、五回、六回ニ分チ試験シタル結果收量最モ多キハ六回除草區ノ二石一斗八升五合ニシテ四回除草區三回除草區五回除草區二回除草區之ニ順次セリ

十五、肥効殘否試験 (一ヶ年)

本試験ハ各種肥料ノ有効成分次年ニ殘留スル多少ヲ驗知センガ爲メ水稻玉錦種ヲ前年ノ肥料反應試験跡地ニ無肥料ニテ栽培シタルニ大豆粕、鯧粕、硫酸アンモニア、石灰窒素ノ四種ノ窒素肥料中肥効ノ翌年ニ殘留スルコト比較的多キハ石灰窒素及ビ大豆粕ニシテ硫酸アンモニア最モ少ナシ

(二) 陸 粕

耕種梗概

- 一、畦 幅 二尺
- 二、播種期 五月十五日(麥間作ハ五月二十五日)
- 三、播種量 反當四升(大粒種ハ四升五合)
- 四、播種法 條播
- 五、肥料 反當用量
堆肥 二〇〇、〇〇〇 硫酸アンモニア 二、〇〇〇

人糞尿 五〇、〇〇〇

大豆粕 一一、〇〇〇

精過磷酸 三、八〇〇

硫酸アンモニアハ第二回中耕ノ際其全量ヲ追肥トス

六、中耕及除草 三回(六月四日、六月二十日、七月十五日)

七、收 穫 黃熟期ニ刈取り稻架ニ掛ケ充分乾燥シテ調製ス

一、品種試験

本試験ハ豫備試験ニ於テ成績良好ト認メタルモノヲ栽培シ收量、品質、特性等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスルニアリ而シテ粳糯十六種ニ就キ試験シタル結果一石四斗以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ

品 種 名	取 寄 先	收 量	品 質
戰捷	本縣行方郡	一石六斗九升九合	不良
早不	本縣鹿島郡	一石六斗六升四合	稍良
信州	本縣新治郡	一石五斗六升六合	良
凱旋	群馬縣	一石五斗二合	良
吉川	千葉縣	一石四斗五升五合	最良
倉澤	千葉縣	一石四斗三升九合	良

常陸 錦 本縣稻敷郡 一石四斗三升二合 最良

二、品種豫備試験

本試験ハ多クノ品種ヲ蒐集栽培シ其優劣ヲ比較シ以テ良好ト認メタルモノヲ品種試験ニ加ヘントス而シテ粳糯八種ニ就キ試験シタル結果一石三斗以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ

品 種 名	取 寄 先	收 量	品 質
かいらん	本縣那珂郡	一石三斗六升四合	稍良
春一選	本縣那珂郡	一石三斗四升四合	良
博覽會	馬縣	一石三斗七升	良
金子坊主	馬縣	一石五斗二升九合	良

三、肥料配合法試験

(三ヶ年繼續)

本試験ハ陸稻ヲ栽培スルニ當リ最モ適當ナル肥料ノ配合法ヲ知ランガ爲メ大豆粕、硫酸アンモニア、智利硝石、醬油粕、鯧粕、鯧粕、石灰窒素ヲ主トシ此等ニ夫々堆肥、人糞尿、精過磷酸石灰ヲ加ヘ各區共標準肥料ト全成分ニ配合シ粳吉川、糯凱旋ニ就キ試験シタル結果粳糯共「大豆粕、硫酸アンモ

ニア區」即チ堆肥百五十貫、大豆粕十貫、硫酸アンモニア三貫四百三十匁、精過磷酸三貫三百三十匁ヲ配合シタルモノ收量最モ多シ粳糯各區ノ收量左ノ如シ

試 驗 區 別	粳 收 量	糯 收 量
標 準 區	一石四斗八合	一石七斗八升五合
大 豆 粕 區	一石四斗一升	一石八斗二升
硫酸アンモニア區	一石四斗一升三合	一石八斗四升八合
智利硝石區	一石三斗八升九合	一石六斗九升六合
醬 油 粕 區	一石三斗七升	一石七斗九升二合
鯧 粕 區	一石四斗五升九合	一石八斗五升二合
鯧 粕 區	一石四斗三合	一石九斗一升五合
石灰窒素區	一石三斗九升四合	一石七斗七升
大豆粕區	一石五斗二升五合	一石九斗七升二合

備考 標準肥料ハ堆肥百五十貫、人糞尿五十貫、大豆粕十貫、硫酸アンモニア二貫、精過磷酸三貫ナリ

四、休閑地播種期對播種量試験

(二ヶ年)

本試験ハ休閑地ニ於テ陸稻ヲ栽培スルニ當リ適當ナル播種期ト播種量トヲ知ランガ爲メ播種期ヲ五月

一日、五月十日、五月二十日ノ三區トナシ之レニ各三升播、四升播、五升播ノ別ヲ設ケ粳吉川、糯凱
 旋ニ就キ試験シタル結果粳糯共五月十日五升播收量最モ多シ

(三) 麥

耕種梗概

- 一、畦 幅 二尺
- 二、株 間 一尺
- 三、播種期 大麥十月三十日、小麥十月二十日
- 四、播種量 反當大麥四升、小麥三升
- 五、肥料 反當用量

堆肥	大麥	二〇〇、〇〇〇	小麥	一五〇、〇〇〇
人糞	大麥	一〇〇、〇〇〇	小麥	一〇〇、〇〇〇
大豆粕	大麥	一〇、〇〇〇	小麥	五、〇〇〇

精過 灰 四、五〇〇
 葉 灰 五、〇〇〇
 四、五〇〇
 七、〇〇〇

人糞尿ハ半量ヲ追肥トシテ十二月十五日施用ス

- 六、中耕及除草 四回(十一月二十九日、三月十二日、四月一日、四月十五日)
- 七、踏 壓 四回(十二月五日、十二月二十二日、二月六日、三月六日)
- 八、收 穫 黃熟期ニ於テ刈取り麥架ニ掛ケ乾燥シテ扱落シ稈稈ヲ去リ晴天ニ三日間乾燥シ收量其他ヲ調査セリ

一、品種試験

本試験ハ豫備試験ニ於テ成績良好ト認メタルモノヲ栽培シ收量品質特性等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスル目的ニテ大麥十種、小麥八種、裸麥五種ニ就キ試験シタル結果大麥ニ於テ三石五斗以上小麥ニ於テ二石以上裸麥ニ於テ二石七斗以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ

品 種 名	取 寄 先	收 量	品 質
竹 林	本縣新治郡	三石六斗五升七合	良
關 取 崎 玉 縣	三石五斗九升三合		良

ニアリテハ十月十日播、十月二十日播、十月三十日播ニ各標準肥料、一割五分増、三割増トナシ試験シタル結果各期共三割増區收量多キヲ示セリ

備考 標準肥料ハ耕種梗概ニアリ

五、畦幅對播種量試驗 (一ヶ年)

本試験ハ畦幅ノ異ナルニ從テ播種量ヲ如何ニ變化セシムベキカラ驗知センガ爲メ畦幅ヲ一尺六寸、一尺八寸、二尺、二尺二寸トシ夫々大麥(竹林)ハ四升播、五升播、六升播、小麥(赤稈)ハ三升播、四升播、五升播ノ區別ヲナシ試験シタル結果大麥ニアリテハ畦幅一尺八寸、六升播、小麥ニアリテハ畦幅二尺、四升播收量最モ多キヲ示セリ

六、畦幅對肥料用量試驗 (一ヶ年)

畦幅ノ異ナルニ從テ肥料ノ用量ヲ如何ニ變化セシムベキカラ驗知センガ爲メ畦幅ヲ一尺六寸、一尺八寸、二尺、二尺二寸トシ之レニ各標準肥料、一割五分増、三割増ノ區別ヲナシ大麥(竹林)小麥(赤稈)ニ就キ試験シタル結果大小麥共二尺畦三割増區收量多キヲ示セリ

七、株間對肥料用量試驗 (一ヶ年)

株間ノ異ナルニ從テ肥料用量ヲ如何ニ變化セシムベキカラ驗知センガ爲メ株間ヲ七寸、一尺、一尺五寸トシ之レニ各標準肥料、一割五分増、三割増ノ區別ヲナシ大麥(竹林)小麥(赤稈)ニ就キ試験シタル結果大麥ニアリテハ株間一尺五寸標準肥料、小麥ニアリテハ株間一尺五寸、一割五分増區收量最モ多キヲ示セリ

八、耕耘深淺對肥料用量試驗 (一ヶ年)

耕耘ノ深淺ト肥料用量トノ關係ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知センガ爲メ耕耘ノ深サヲ四寸六寸、八寸トシ之レニ各標準肥料、二割五分増、五割増トシ大麥(竹林)小麥(赤稈)ニ就キ試験シタル結果大小麥共深サ八寸ノ五割増收量最モ多キヲ示セリ

九、土入回数試驗 (一ヶ年)

麥ノ生育期間ニ於テ土入ノ効果アルヤヲ驗知シ併セテ適當ナル土入回数ヲ知ランガ爲メ土入ヲ行ハザルモノ一回土入、二回土入、三回土入ノ四區ヲ設ケ之レヲ点播及條播ニ別チ大麥(關取)小麥(赤稈)ニ就キ試験シタル結果小麥点播ヲ除キ其他何レモ土入シタルモノハ多少收量増加セリ而シテ大麥ニアリテハ点播ノ三回土入、小麥ニアリテハ條播ノ三回土入、收量最モ多キヲ示セリ即チ左ノ如シ

大 麥

土入回数	收量 (点播)	收量 (條播)
土入ヲナサ、ルモノ	三石三斗二升七合	三石四斗三升一合
一 回	三石三斗五升三合	三石四斗七升四合
二 回	三石四斗三升二合	三石五斗一升七合
三 回	三石七斗二合	三石五斗四升八合

小 麥

土入回数	收量 (点播)	收量 (條播)
土入ヲナサ、ルモノ	二石一斗九升五合	二石一斗八升五合
一 回	二石一斗四升五合	二石一斗九升七合
二 回	二石二斗一合	二石二斗六升一合
三 回	二石二斗三升八合	二石二斗八升四合

十、石灰窒素施用法試験 (一ヶ年)

本試験ハ石灰窒素ヲ施用スルニ當リ最モ適當ナル施用法ヲ驗知センガ爲メ大麥(竹林)ニ就キ左ノ方法ニヨリテ試験ヲ行ヒタリ

第一、石灰窒素ノミヲ播種二週間前ニ施用シ置クモノ

第二、全一週間前ニ施シ置クモノ

第三、播種當日肥料ノ全部ヲ混合シテ施シ肥料ノ上ニ播種シタルモノ

第四、第三ト同シク施シ肥料ト種子ト觸接セザル様肥料ノ傍ニ播種ス

第五、第三ト同様ニ施シ薄ク覆土シタル後播種ス

第六、播種當日石灰窒素ノミヲ施シ次ニ他ノ肥料ヲ施シタル上ニ播種シタルモノ

第七、播種二週間前石灰窒素ニ十培ノ耕土ヲ混合シ舍内ニ堆積シ其上下ニ十培ノ耕土ヲ置キテ施用シタルモノ

第八、第七ト同様ニシテ舍外ニ置キタルモノ

第九、播種一週間前第七ト同様ニ處置シタルモノ

第十、第九ト同様ニシテ舍外ニ置キタルモノ

第十一、播種二週間前石灰窒素ニ十培ノ堆肥ヲ混合シテ舍内ニ堆積シ其上下ニ十培ノ堆肥ヲ置キテ施用シタルモノ

第十二、播種一週間前第十一ト同様ニ處置シタルモノ

備考 各區ノ施用量ハ堆肥二百貫、大豆粕七貫、石灰窒素四貫五百八十八匁、精過磷酸四貫六百五匁、糞灰十二貫三百四十匁

試驗ノ結果收量最モ多キハ第一石灰窒素ノミヲ播種ニ週間前ニ施シ置キタルモノニシテ第四區之レニ次ギ第二區、第五區、第十二區、第七區之レニ順次シ第三區ハ發芽ヲ害シ收量最モ劣レリ

十一、石灰窒素配合法試驗 (一ヶ年)

麥作肥料トシテ石灰窒素ヲ施用スルニ當リ如何ナル配合法ガ最モ適當ナルカラ驗知センガ爲メ各區共標準肥料ト同成分トナシ之レヲ七區ニ別チ大麥(竹林)種ニ就キ試驗シタル結果狀量最モ多キハ堆肥二百貫、大豆粕七貫、石灰窒素二貫二百九十四匁、硫酸アンモニア一貫九百五十匁、精過磷酸四貫六百五匁ヲ配合施用シタルモノナリ

十二、石灰窒素用量試驗 (一ヶ年)

本試驗ハ麥作肥料トシテ石灰窒素ヲ施スニ當リ適當ナル施用量ヲ驗知センガ爲メ各區共同成分トナシ石灰窒素ノ用量ヲ増加シ之レヲ四區ニ別チ大麥(竹林)ニ就キ試驗シタル結果收量最モ多キハ堆肥二百貫、大豆粕五貫、石灰窒素五貫四百十二匁、精過磷酸四貫六百六十匁、糞灰十三貫二百二十匁ヲ施用シタルモノナリ

十三、大豆粕用量試驗 (一ヶ年)

近來堆肥ノ施用減少シ大豆粕ヲ多量ニ施用スル傾向アレドモ大豆粕ハ施用ノ程度ニヨリ往々發芽ヲ害スルモノナレバ之レガ適量ヲ知ランガ爲メ堆肥、硫酸アンモニア、精過磷酸、糞灰ヲ配合シテ各區ヲ同成分トナシ大麥(竹林)ニ就キ試驗シタル結果ハ左表ノ如クニシテ未ダ其要領ヲ得ルコト能ハザレドモ三十貫ヲ施シタルモノハ發芽ヲ害セラレタリ尙試驗ヲ繼續シテ之ヲ決定セントス

區名	大豆粕用量	收量
第一	十貫匁	四、二二五
第二	十五貫匁	三、九〇八
第三	二十貫匁	四、一五一
第四	三十貫匁	三、九九〇

十四、配合肥料効能比較試驗 (二ヶ年繼續)

麥作肥料トシテ本縣下ニ多ク販賣セラル、配合肥料ニ就キ之レト全成分ニ他ノ肥料ヲ配合シテ經濟上ノ得失ヲ驗知センガ爲メ日星印完全肥料一號、櫻王印專用肥料六號、全上十七號、鍵印特製完全肥料十號、菊水印特撰一號ノ五種ニ付キ大麥(竹林)ニテ試驗シタル結果各區共收量ニハ大差ナキモ肥料代價ニ於テ配合肥料高價ニシテ不經濟ナルコトヲ示セリ

十五、肥料反應ニ關スル試驗 (一ヶ年)

本試験ハ肥料配合上其綜合反應ノ作物生育ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ驗知センガ爲メ硫酸アンモニア、石灰窒素、智利硝石ノ三種ノ窒素肥料ニ就キ各堆肥ヲ加ヘタルモノト否ラザルモノトヲ設ケ各成分量ヲ同一ニシ反應ヲ異ニシ大麥(竹林)種ヲ用ヒテ試驗シタルニ硫酸アンモニア區ニ於テハ弱酸性配合最モ佳良ニシテ石灰窒素區ニ於テ成績良好ナリシハ弱アルカリ性配合及ビ酸性配合ニシテ智利硝石區ニ於テハ弱アルカリ性配合最モ良好ナルコトヲ認メタリ

(四) 大豆

耕種梗概

- 一、播種期 五月三十日
- 二、播種量 反當三升
- 三、播種法 一條播
- 四、畦幅 二尺
- 五、肥料 (反當) 堆肥一〇〇貫、硫酸アンモニア一貫、糞灰五貫、精過磷酸五貫

六、中耕及除草 三回(六月二十五日、七月八日、七月十五日)

一、品種試驗

本試験ハ豫備試驗ニ於テ成績良好ト認メタルモノヲ栽培シ收量品質特性等ヲ調査シ以テ良品種ヲ選出セントスルニアリ而シテ十四種ニ就キ試驗シタル結果一石以上ノ收量アリモノ左ノ如シ

品種名	取寄先	收量	成熟期	品質
地 塚	本縣東茨城郡	一石一斗三升一合	九月二十三日	良
花 塚	本縣西茨城郡	一石一斗二升二合	九月二十六日	不良
白 塚	本縣東茨城郡	一石九升一合	九月二十四日	良
目 赤	本縣東茨城郡	一石八升	九月卅日	最良
本種赤	本縣東茨城郡	一石七升五合	九月二十三日	不良
瀧 谷	本縣新治郡	一石五升三合	九月二十三日	最良
生 谷	新 潟 縣	一石五升	十月十一日	良
晚 娘	埼 玉 縣	一石三升一合	九月二十三日	最良
小 越	本縣那珂郡	一石三升	九月二十六日	良
福 那	本縣那珂郡	一石四合	九月二十六日	最良

二、連作試験 (三ヶ年繼續)

大豆ヲ連作スル時ハ成育不良ニシテ收量年ヲ追テ減少スルノミナラズ病害ニ罹リ易シ依テ連作スル畑地ニ對シ如何ナル方法ヲ施セバ病害ヲ除キ相當ノ收量ヲ得ベキカラ驗知センガ爲メ無肥料區、硫酸アソモニア區、智利硝石區、人糞尿區、大豆粕區、骨粉區ヲ設ケテ各標準肥料ト全成分量ニ配合シ又標準肥料ニ木灰、石灰ヲ別々ニ加用シ八區ニ別テ試驗シタル結果無肥料區ハ嫌地病發生シ收量僅ニ五斗七升五合ナリシモ他ノ區ニハ全ク之レヲ認メズ何レモ相當ノ收量ヲ得タリ而シテ標準肥料ニ石灰三十貫ヲ加用シタルモノハ九斗三升六合ニシテ成績最モ良好ナリ

備考 標準肥料ハ耕種梗概ニアリ

三、肥料用量對播種量試驗 (二ヶ年繼續)

本試驗ハ大豆ヲ栽培スルニ當リ肥料用量ノ多少ニヨリ播種量ヲ如何ニ加減スベキカラ驗知センガ爲メ標準肥料、二割五分増、五割増ノ三區ニ各二升播、三升播、四升播ノ別ヲ設ケ試驗シタル結果標準肥料區ニアリテハ三升播、二割五分増區ニアリテハ四升播、五割増區ニアリテハ三升播收量最モ多キヲ示セリ

四、播種期對播種量試驗 (三ヶ年繼續)

本試驗ハ草丈ケ長キ小麥ノ間作トシテ大豆ヲ遲播スルニ當リ量種期ノ異ナルニ從ヒ幾何量ノ種子ヲ播下シテ可ナルカラ驗知センガ爲メ六月十五日、六月二十日、六月二十五日、六月卅日ノ各期ニ三升播四升五合播、六升播トナシ試驗シタル結果各期共六升播收量最モ多キヲ示セリ尙明治四十四年以來三ヶ年間ノ成績モ能ク之レト符合スルヲ以テ大豆ハ播種期遅ル、ニ從テ播種量ヲ増加スルコトノ有利ナルヲ認メタリ然レドモ遲播ハ種子ヲ多ク要シ品質劣リ收量モ亦比較的減少スルハ勿論ナリ

五、藁灰用量試驗 (一ヶ年)

大豆ヲ栽培スルニ當リ藁灰ノ用量増加ハ收量品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカラ驗知センガ爲メ、標準肥料、藁灰二貫五百匁加用、五貫如用、七貫五百匁加用、十貫匁加用ノ五區ニ別テ試驗シタル結果藁灰ヲ増加スルニ從ヒ收量多キヲ示セリ

六、石灰施用試驗 (一ヶ年)

石灰ノ施用ハ大豆ノ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカラ驗知センガ爲メ標準肥料、石灰五貫加用、十貫加用、十五貫加用、二十貫加用ノ五區ニ別テ試驗シタル結果石灰ヲ増加スルニ從ヒ收量多キヲ示セリ

七、畦幅對播種量試驗 (一ヶ年)

本試驗ハ畦幅ノ廣狹ニヨリ如何ニ播種量ヲ加減スベキカラ驗知セントスルニアリ而シテ畦幅ヲ一尺六寸、一尺八寸、二尺、二尺二寸トシ之レヲ各三升播、四升播、五升播トシ試驗シタル結果畦幅一尺六寸ニアリテハ三升播、一尺八寸ニアリテハ四升播、二尺ニアリテハ三升播、二尺二寸ニアリテハ四升播收量多キヲ示セリ

(五) 小麥

品種試驗

早生、夏四十日、紫、薄色、錦、赤ノ六種ニ就キ試驗シタル結果良好ナル成績ヲ得タルモノハ紫、錦薄色、赤ノ四種ナリ

(六) 甘藷

一、品種試驗 (七ヶ年繼續)

廣島、飯郷、薄赤、鹿兒島、川越、八ッ房、肩拔、紅赤、金時ノ九種ニ就キ試驗シタル結果四百五十貫以上ノ收量アリシモノ左ノ如シ。

品	種	名	取	寄	先	收	量	品質
廣	島	本縣那珂郡				五百四十八貫四百五十		不良
飯	郷	東京府				四百八十八貫三百		稍良
肩	拔	埼玉縣				四百七十八貫四百		最良
紅	赤	埼玉縣				四百八十五貫二百		最良
金	時	埼玉縣				四百八十四貫九百		最良

二、肥料配合法試驗 (二ヶ年繼續)

甘藷ヲ栽培スルニ當リ適當ナル肥料ノ配合法ヲ驗知センガ爲メ米糠、大豆粕、硫酸アンモニア、智利硝石ヲ基礎トシ之レニ堆肥、精過磷酸、藁灰ヲ配合シ各區共同成分トナシ薄赤種ニ就キ試驗シタル成績左ノ如シ

第一	第二	第三	第四
堆米	堆大豆	堆硫酸アンモニア	堆智利
肥糠	肥粕	肥灰	肥石
100,000	100,000	100,000	100,000
15,000	4,460	1,560	2,000
5,000	2,300	2,350	2,350
480,990	7,700	9,670	9,670
464,310	572,130	588,630	410,400
472,650	482,760	513,550	489,150
	527,445	551,090	499,775
大正元年 收量	大正二年 收量	平均收量	

(七) 蒟 蒻

病害豫防試験 (二ヶ年繼續)

本試験ハ蒟蒻ノ病害ヲ豫防センニハ如何ナル方法ニヨルベキカラ驗知センガ爲メ左ノ方法ニテ試験ヲ行ヒタリ

- 第一、生石灰一貫五百匁水二斗ノ石灰乳中ニ種玉ヲ十五分間浸漬シタル後栽植ス
- 第二、フォルマリン一・五%液中ニ種玉ヲ五分間浸漬シタル後栽培ス
- 第三、石灰ヲ芽元ニ施シテ栽培ス (一株二十匁)
- 第四、覆土ヲ三寸以上厚クシテ高畦トナス
- 第五、窒素多量區
- 第六、磷酸多量甲區 (精過磷酸)
- 第七、磷酸多量乙區 (蒸製骨粉)
- 第八、加里多量甲區 (硫酸加里)
- 第九、加里多量乙區 (藪灰)

第十、標準肥料

番外

第一、石灰ヲ植土ニ混合シテ栽植ス (一株二十匁)

第二、三斗五升式ボルドー液ヲ二回撒布ス

備考 標準肥料ハ堆肥二百貫、人糞尿百貫、大豆粕十五貫、精過磷酸二貫五百匁、葉灰二十貫

ナリ

試験ノ結果病害全クナキハ第一區、第三區、第四區、第五區、第十區ニシテ病害ノ最モ多キハ第八區ナリト雖モ尙試験年數ヲ重ヌルニアラザレバ直ニ斷定ヲ下ス能ハズ

(八) 水稻裏作

一、大麥品種試驗

本試驗ハ水稻裏作ニ適スル大麥ノ良品種ヲ選出セントスルモノニシテ六種ニ就キ試驗シタル結果收量最モ多キハ三德種ノ二石三斗四升一合ニシテ谷風、竹林、關取、九合、穗揃之ニ順次セリ

二、大麥肥料試驗 (三ヶ年)

水稻ノ裏作タル大麥ニ對シ適當ナル肥料配合法ヲ知ランガ爲メ左記肥料ヲ全成分ニ配合シ試驗シタル成績次ノ如クニシテ第四區ハ大豆粕ノ爲メ發芽ヲ害セラレタルヲ以テ收量モ亦少キモノナリ

試驗區別		大正二年 收量	三ヶ年 平均收量
第一	堆肥 100,000 人糞尿 40,000 大豆粕 10,000 精過磷酸石灰 5,250	2,149	2,111
第二	堆肥 200,000 人糞尿 162,800 精過磷酸石灰 5,100	1,752	1,964
第三	堆肥 120,000 硫酸アムモニア 4,640 精過磷酸石灰 5,610 葉灰 6,176	2,133	2,143

堆肥	100,000
大豆粕	13,257
精過磷酸石灰	5,255
灰	1,691
糞	1,268

三、油菜肥料試試 (三ヶ年)

本試験ハ水稻ノ裏作タル油菜ニ對シ最モ適當ナル肥料配合法ヲ知ランガ爲メ種々ナル肥料ヲ全成分ニ配合シ試験シタル結果收量最モ多キハ堆肥百五十貫、大豆粕十四貫八百八十六匁、精過磷酸石灰六貫五百三十五匁、糞灰八貫七百二十三匁ヲ配合シタル一石一斗八升八合ナリ

四、馬鈴薯肥料配合法試試 (二ヶ年)

馬鈴薯ヲ水稻裏作トシテ栽培スルニ當リ最モ適當ナル肥料配合法ヲ知ランガ爲メ大豆粕、硫酸アムモニア、智利硝石ノ三種ニ就キ何レモ堆肥、精過磷酸石灰及糞灰ヲ配合シテ全成分トナシ試験シタル結果收量最モ多キハ硫酸アムモニア區ノ三百五十七貫ニシテ智利硝石區之ニ次ギ大豆粕區最モ劣レリ

五、紫雲英施肥期試試 (一ヶ年)

紫雲英ハ施肥期ノ異ナルニ依リ收量ニ如何ナル差異アルカヲ知ランガ爲メ施肥量ヲ反當精過磷酸四貫匁、糞十貫匁、人糞尿五貫匁トシ施肥期ヲ十二月一日、三月十五日、四月十五日ノ三期ニ分チ試験シタル結果收量最モ多キハ三月十五日ニ施シタル區ノ千五十貫ニシテ四月十五日ニ施シタルモノ之ニ次ギ十二月一日施シタルモノ最モ劣レリ

六、苜蓿播種法試試 (一ヶ年)

排水不良ナル場所ニ苜蓿ヲ栽培スルニハ如何ナル方法ニ據ルベキカ其適法ヲ知ラレガ爲メ田面ニ肥料ヲ置キ其上ニ播種スルモノト播種スベキ部分ヲ少シク高クシ其上ニ肥料ヲ置キ播種セルモノトニ就キ試験シタル結果播種スベキ部分ヲ高クシタルモノハ反當四百五十貫ノ收量ヲ得タリト雖モ普通ニ播種シタルモノハ四百十貫ナリ

七、豌豆及蠶豆肥料試試

綠肥用トシテ豌豆及蠶豆ヲ栽培スルニ當リ肥料ノ種類及其配合法ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカヲ知ランガ爲メ堆肥百五十貫ヲ基本肥料トナシ之ニ種々ナル肥料ヲ全成分ニ配合シ播種期ヲ春秋二期ニ分チ試験シタルニ水害ヲ蒙リ其成績詳ナラズ

八、大豆播種量試験 (三ヶ年)

綠肥用トシテ大豆ヲ栽培スルニ當リ其播種量ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルカラ知ランガ爲メ六升、八升、一斗、一斗二升、一斗四升、一斗六升播ニ就キ試験シタルニ水害ノ爲メ成績詳ナラズ

(九) 蔬 菜

一、茄 子

イ、品 種 試 驗 (二ヶ年繼續)

本試験ハ汎ク各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育状態、收量及品質等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選出セントスルモノニシテ九品種ニ就テ試験シタル結果漬物煮食兼用種ニアリテハ中生山茄收量最モ多ク晩生山茄、早生蔓細千成等之ニ次ギ札幌丸茄ノ收量最モ劣リタリ而シテ煮食用種ニアリテハ清國大丸茄ノ收量最高位ヲ占メ晩生丸茄及春竹茄等之ニ順次シ巾着茄最下位ニアリタリ

ロ、剪 枝 試 驗 (三ヶ年繼續)

多枝性ノ茄子ヲ栽培スルニ當リ其最下枝數本ヲ剪除セシモノト否ラザルモノトハ其生育收量ニ如何ナ

ル差アルカ併セテ下部ニ幾枝ヲ存セシムルヲ最良トナスカラ驗知センガタメ六區ニ別テ試験シタル結果下枝二本ヲ剪除シタルモノ收量最モ多ク四本剪枝區三本剪枝區等之ニ順次シ元花ノ下部全枝ヲ剪除シタルモノハ收量最モ劣レリ

ハ、肥料配合法試験 (一ヶ年)

配合法ヲ異ニセル諸種ノ肥料ヲ用ヒテ茄子ヲ栽培セバ油粕ヲ主肥トセルモノト其生育收量及品質ニ如何ナル差違アルカラ知ラン爲メ六區ヲ設ケ試験シタルニ人糞尿區ノ收量最高位ヲ占メ鰾粕區之ニ次ギ大豆粕區最モ劣レリ

二、蕃 茄

イ、品 種 試 驗 (二ヶ年繼續)

食卓用生果ニ供スルタメ九品種ニ就キ比較試験シタル結果收量ノ最モ多カリシハ札幌ニシテ反當收量實ニ千四百八十七貫匁ノ巨額ニ達シ「ボンテロザ」、「マツチレス」、「ミカド」等何レモ千貫匁以上ノ收量ヲ現ハシ「チャムピオン」ノ收量最モ少ナシ而シテ收量稍劣ルモ品質ノ卓絶セルハ「テールブルク井」ニシテ「ニュー、アーリー、フリードム」之ニ次グ

ロ、整 枝 法 試 驗 (一ヶ年)

蕃茄栽培上如何ナル整枝法ニ倚ルヲ經濟上得策トナスカヲ驗セントテ三種ノ整枝法ヲ比較セシニ「ブ
ッシ」仕立ノ收量最モ多ク二本カンテラブル仕立法ノ收量最モ少ナシ但シ「ブッシ」仕立法ハ其初收穫
期遅レ且ツ果形矮小不整ナリシニ反シ單幹直立仕立法ハ收量中間ニ位シテ收穫期早ク形狀色澤等最良
ナル結果ヲ呈セリ

三、胡瓜

イ、品種試驗 (二ヶ年繼續)

十品種ニツキ試驗シタル結果收量最モ多キハ青大胡瓜ニシテ早生三枚目節成之ニ次ギ庄内早生最モ劣
レリ

ロ、整枝法試驗 (一ヶ年)

四種ノ整枝法ニツキ試驗シタル結果收量ニ於テハ二本カンテラブル仕立法及一同摘心單幹直立コルド
ン仕立法ハ他ノ二區ニ優リタルモ自然放任法ハ枝葉繁茂スルタメ病害ノ發生多キ缺點アリ

ハ、肥料配合法試驗 (一ヶ年)

胡瓜栽培上最モ有利ナル肥料配合法ヲ知ラン爲メ六區ヲ設ケ試驗シタルニ硫酸安母尼亞區ノ收量最高
位ヲ占メ鰾粕區之ニ次ギ人糞尿區最モ劣レリ

四、甜瓜

品種試驗 (一ヶ年)

本試驗ニ於テハ露地栽培ニ堪ユル東洋原産ノ各種甜瓜ヲ蒐集試驗セシニ七品種中金甜瓜ノ收量最モ多
ク銀甜瓜之ニ次ギ香港及天津兩種ノ收量最モ少カリシモ品質ノ優良ナルハ天津ヲ以テ最トス

五、南瓜

イ、品種試驗 (二ヶ年繼續)

七品種ニツキ試驗シタル結果反當五百貫匁以上ノ收量ヲアゲタルモノハ菊座、三毛門ニシテ收量最少
ナリシハ早生小南瓜ナリ

ロ、農商務省園藝試驗場委囑南瓜品種試驗 (一ヶ年)

瓢形變形、瓢形、鳥取縮緬、須賀、縮みノ五種ヲ比較試驗シタル結果收量ノ最モ多キハ須賀種ノ反當
六百四十三貫匁ニシテ鳥取縮緬ノ五百六十四貫匁之ニ亞ギ瓢形變形ノ三百八十八貫最モ劣レリ

ハ、肥料配合法試驗 (一ヶ年)

六區ヲ設ケテ試驗シタル結果收量ノ最モ多キ油粕區ニシテ鰾粕區之ニ次ギ硫酸安母尼亞區最モ劣レリ

六、西瓜

品種試驗 (一ヶ年)

六品種ニ就キ比較試驗セシニ收量ニ於テ「スポートサイベリアン」最高位ニアリ「マウンテンスポート」之ニ亞ギ「ハルバートオネー」最下位ニアリシモ品質ニ於テハ他種ニ優レリ

七、菜豆

品種試驗 (二ヶ年繼續)

八品種ニ就テ試驗シタルニ品質收量共ニ優秀ナリシハ「エキストラ、アーリー、シツクス、ウエーク」臺灣大莢、「オールドホームステット」等ニシテ品質劣等ナルモ收量ノ饒多ナリシハ大莢白菜豆ナリ

八、菜豆

品種試驗 (一ヶ年)

菜豆ノ海外輸出年ヲ逐フテ増加シ之ガ栽培亦有望トナリシヲ以テ本縣ニ於テ果シテ此レヲ栽培シ得ラル、ヤ否ヤヲ確メシタメ六品種ヲ蒐集試驗シタルニ内二種ハ性質虛弱ニシテ成熟スルニ至ラズシテ大半枯死セシガ他四種ハ辛フジテ成熟ヲ遂ゲシト雖モ其熟期長ク恰モ年中比較的雨量多キ九月上旬ヨリ下旬ニ亘リ早ク熟セシモノハ莢中發芽ヲ來スヲ以テ採收ノ如キモ數回ニ行フノ不便ヲ生ジ爲ニ完全ノ

成績ヲ得ル能ハザリシガ就中英國「リマ」ノ收量最モ多ク「カリフォルニア」之ニ亞ギ「ピースブツシユリマ」最モ劣レリ要スルニ菜豆ニ就テハ尙充分ノ研究ヲ要ス

九、甘藍

イ、秋播甘藍品種試驗 (二ヶ年繼續)

八品種ニ就テ試驗シタル結果「アーリースサムマア」ノ收量最モ多ク反當實ニ千十六貫匁ノ巨額ニ達シ「アーリースプリング」ノ九百三十貫匁之ニ亞ギ「イムベリアル」最モ少ナシ

ロ、假植回数試驗 (二ヶ年繼續)

甘藍假植回数ノ多少ガ其結球及收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスカヲ驗知セン爲メ秋播「サクセツション」ヲ三區ニ別チテ試驗シタル結果一回假植區ノ收量最モ多ク三回假植區最モ少ナシ

ハ、定植期試驗 (一ヶ年)

秋播甘藍定植適期ヲ驗知セントタメ十二月一日、二月廿五日、三月十日、三月廿日ノ四區ニ別チ試驗シタルニ三月廿日及三月十日定植有利ニシテ之レヨリ早植スルハ不可ナルヲ知ル

ニ、磷酸成分増減試驗 (一ヶ年)

甘藍栽培上磷酸成分ノ増減ハ其結球及收量ニ如何ナル影響アルヤヲ驗知セントタメ四區ニ別チ試驗シタ

ル結果磷酸五割増區ノ收量最モ多ク全二割五分減區ノ成績最モ劣レリ

ホ、春播甘藍品種試験 (二ヶ年繼續)

六品種ニ就キ試験シタルニ反當九百貫匁以上ノ收量アリシハ「サクセツション」及「バンダーボー」ノ二種ニシテ中野早生最モ少ク反當六百三十貫匁ナリ

十、瓜哇薯

イ、品種試験 (一ヶ年)

十品種ニ就テ試験セシ結果「ブライドオブアメリカン」ノ收量最モ多ク赤薯「ダコタ」之ニ亞ギ「アール」ノ最モ劣レリ

ロ、除藥試験 (一ヶ年)

瓜哇薯ノ幼芽數ヲ制限スルハ有効ナルヤ否ヤニツキ試験シタルニ全ク除藥セザルモノ、收量最モ多ク除藥スルコト多キニ從ヒ益々收量ヲ減セリサレド除藥セザルモノハ屑薯多キ傾向アルガ如シ

十一、牛蒡

品種試験 (二ヶ年繼續)

六品種ニ就キ試験セシニ反當四百貫匁以上ノ收量アリシハ獨逸白、東京大長、札幌ノ三種ニシテ砂川ノ收量最モ劣リタリ

十二、里芋

イ、品種試験 (二ヶ年繼續)

七品種ニ就キテ試験セシニ總收量ノ最多ナリシハ多田ニシテ島芋之ニ次ギ唐芋最少ナリ而シテ親芋ノ收量多カリシハ多田種ニシテ早生赤芽及島芋之ニ順次シ子芋ノ收量モ亦多田種最多ク反當實ニ五百三十一貫匁ノ巨額ニ達シ早生芋、島芋、土垂等順次之ニ亞ゲリ

ロ、直植對移植試験 (一ヶ年)

子芋ヲ其儘直植スルト一旦温床中ニテ發芽セシメテ移植スルト何レガ優ルカヲ試験セシニ移植區ニ於テ稍收量多キヲ示セリ

十三、玉蜀黍

品種試験 (一ヶ年)

燒食用果穗ヲ得ンタメ五品種ニツキ試験シタルニ收量ノ最多ナリシハ甲州ニシテ「ハウリング、モツブ」

「ロングフェロウ」等之ニ次ギ「ゴールデンバンタム」最モ少カリシ

十四、落花生

品種試験 (二ヶ年繼續)

三品種ニツキ試験セシニ旬落花最高ノ收量ヲアゲ小粒落花之ニ亞ギ立落花ノ收量最低位ニアリシト雖品質ニ於テハ立落花首位ニアルヲ知レリ

十五、葱 (春播)

イ、品種試験 (二ヶ年繼續)

九品種ニ就キ試験セシニ軟白部用太葱ニアリテハ東京根深ノ收量首位ヲ占メ千住之ニ亞ギ下仁田ノ收量最下位ニアリ又葉葱用ニ於テハ水戸薄赤ノ收量最モ多ク岩槻最モ少ナシ

ロ、株間廣狹對栽植本數試験 (二ヶ年繼續)

太葱栽植上其株間ノ廣狹及一株ニ對スル本數ノ多少ガ其收量及品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セン爲メ二寸株間一本植、三寸株間一本植、四寸株間一本植、四寸株間二本植、四寸株間二本植ノ五區ニ別チテ試験セシニ收量ノ最多ナリシハ三寸株間二本植ニシテ四寸株間二本植、二寸株間一本等之ニ

順次シ四寸株間一本植ノ收量最モ劣ル品質ハ之ニ反比例セリ要スルニ品質及收量ヲ對照シ經濟上最モ得策ナルハ三寸株間一本植ナリトス

ハ、剪根試験 (二ヶ年繼續)

惣定植ノ際葉及根ノ一部分ヲ剪去スルノ可否ヲ驗センタメ葉根共ニ剪去セザルモノ、葉根共ニ全長ノ三分ノ一ヲ剪去セルモノ、全上二分ノ一ヲ剪去セルモノニ就キ試験シタル結果二ヶ年ヲ通ジテ葉根ヲ剪去セザルモノ收量多キヲ示セリ

十六、胡蘿蔔

イ、品種試験 (二ヶ年繼續)

九種ニツキ試験セシニ一反歩五白貫忽以上ノ收量アリシモノハ「タンバース」、「サットンズ」、「アーリーゼム」、「モリスロングオレンジ」、「オツクス」、「バート」、「札幌大長等ニシテ「サットンズ」、「チャンピオン」、「カーレット」、「ホーン」ノ收量最モ劣レリ

ロ、窒素成分増減試験 (一ヶ年)

胡蘿蔔栽培上窒素成分ノ多寡ガ收量及品質ニ如何ナル關係アルカヲ驗知センタメ標準區、窒素二割五分増、全上五割増、全上二割五分減ノ四區ニ別チ試験セシニ窒素五割増區ノ收量最モ多シト雖標準區

トノ差異僅少ナリ

十七、蘿 蔔

イ、品 種 試 験 (三ヶ年繼續)

養食用四種、漬物用七種ニ就キ試験セシニ養食用種ニアリテハ鞍馬口ノ收量最モ多ク反當千六百貫匁ニ達シ方領ノ千二百七十貫匁最劣レリ而シテ漬物用種ニアリテハ練馬尻丸、宮重尻丸及宮重尻細ノ收量就中多ク何レモ反當千二百五十貫匁以上ノ收量ヲ現ハシ金上ノ七百貫匁最モ劣レリ

ロ、下葉摘除試験 (二ヶ年繼續)

長形種蘿蔔ヲ栽培スルニ當リ其根部ノ稍發育シタル時根頸上ニ叢生スル外葉數枚ヲ搔取ルハ根部ノ發育上有利ナリト唱ヘラル乃テ其効果及回数ヲ驗知セントタメ搔葉セザルモノ、一回、二回、三回、搔葉ノ四區ニ分チ試験セシニ二回、三回、搔葉區ノ收量稍多カリシモ其差異搔葉セザルモノニ比シ些少ナルヲ以テ殊更搔葉スルノ必要ナキガ如シ

ハ、養食用蘿蔔一要素多量試験 (一ヶ年)

養食用蘿蔔ヲ栽培スルニ方リ肥料三成分中特ニ一成分ヲ多量ニ施ストキハ其收量ニ如何ナル差異アルカヲ驗セントタメ標準區、窒素五割増、磷酸五割増、加里五割増ノ四區ニ別チテ試験セシ結果窒素五割

増區ノ收量最モ多ク加里五割増區最モ劣レリ

ニ、澤庵用蘿蔔肥料配合法試験 (一ヶ年)

當地方ノ習慣上澤庵用蘿蔔ノ肥料トシテ一般ニ米糠ヲ主用スルモノ多キモ之ニ代フルニ他ノ肥料ヲ以テセバ其收量及品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントタメ、米糠、大豆粕、荒粕、骨粉、精過磷酸石灰等ヲ各主肥料トシテ試験セシニ收量ニ於テハ骨粉大豆粕ヲ用ヒタルモノ優リシモ品質ニ於テハ肉眼鑑定上骨粉區、米糠區優良ニシテ品質收量共ニ劣リシハ精過磷酸石灰區ナリ

十八、燕 菁

イ、品 種 試 験 (三ヶ年繼續)

七品種ニツキ試験セシニ收量品質共ニ他種ニ秀絶セシハ聖護院ニシテ湖南、長蕪ハ品質稍劣ルモ收量多キヲ認メタリ而シテ品質收量兩ツナガラ著シク劣等ナルハ緋蕪ニシテ本種ハ調理用トシテノ外殆んど栽培スルノ價值ナキモノ、如シ

ロ、搔 土 試 験 (二ヶ年繼續)

燕菁根部ノ稍發育セシ時根際ニ於ケル土ヲ搔タコトハ根部ノ發育ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ランタメ搔土セザルモノ、一回、二回、三回搔土ノ四區ニ別チ試験セシ結果搔土セザルモノ、收量最モ多

シ是ニ依リテ觀レバ蕪菁栽培上搔土ハ徒勞ニ屬スルモノニ似タリ

ハ、一要素多量試験 (一ヶ年)

養食用蘿蔔ノ項ト全樣四區ニ別チテ試験セシニ窒素五割増區ノ收量首位ヲ占メ標準區之ニ亞ギ磷酸五割増區最モ劣レリ

十九、菘 菜

品 種 試 驗 (三ヶ年繼續)

七種ノ不結球性菘菜ニツキ試験シタル結果品質收量共ニ優レタルハ山東菜ニシテ反當實ニ千二百二十六貫匁ニ及ビ改良白莖體菜之ニ亞ギ反當千八貫ノ實收ヲ示シタリ而シテ三河島菜ノ如キハ收量著シク多キモ品質最モ劣等ナルヲ以テ良種ニ數ヘ難シ

二十、結 球 白 菜

イ、品 種 試 驗 (四ヶ年繼續)

品種ニ就キ比較セシニ收量ノ饒多ナリシハ青蕪菜、直隸、開城、芝罘、鷄頭等ノ順序ニシテ包心ノ收量最モ寡少ナリキ而シテ品質優良且ツ結球堅密ナリシハ芝罘(茨城白菜又ハ金州白菜ト呼ブハ本種ナ

リ)ニシテ包心、直隸、青蕪菜、鷄頭等之ニ亞ギ縮種最モ劣等ナルガ如シ

ロ、追肥回数對施肥期試験 (二ヶ年繼續)

本試験ハ追肥回数ノ多少ト其施肥期ノ早晚ハ白菜ノ收量ニ如何ナル差アルカヲ驗知セントメ四回(標準)三回、二回追肥ノ三區ニ別チテ試験シタル結果成績最モ佳良ナリシハ三回追肥區ナリ

ハ、直播對移植試験 (二ヶ年繼續)

白菜栽培者ハ一般ニ直播法ニ倚ルヲ常例トスルモ若シ之ヲ一旦冷床中ニ下種育苗シ以テ定地ニ移植セバ直播法ニ比シ孰レガ有利ナルカヲ驗知セントメ試験セシニ直播法ノ遙ニ優良ナルヲ知り得タリ

ニ、肥料配合法試験 (二ヶ年繼續)

各種ノ肥料ヲ同成分ニ配合シ以テ白菜栽培上何レガ最モ適當ナルカヲ驗知セントメ人糞尿區(標準)人糞尿及鱈粕區、大豆粕區、硫酸安母尼亞區、智利硝石區、鱈粕區ノ六區ニ別チ比較試験セシニ硫酸安母尼亞區ノ收量最モ多ク大豆粕區之ニ亞ギ人糞尿及鱈粕區ノ收量最下位ニアリ

ホ、病害豫防法試験 (一ヶ年)

結球白菜ニ多ク發生スル腐敗病及白銹病豫防ニ如何ナル方法ヲ執リテ可ナルカヲ驗知セントメ第一、無豫防區(標準)第二、耕耘ノ際反當石灰三十貫匁ヲ勸キ込ム、第三、全上木灰四十貫匁ヲ勸キ込ム、第四、全上石灰窒素十五貫匁ヲ勸キ込ムノ四區ニ別チ試験シタル結果何レモ多少發病ヲ見タルモ無豫防

法ニ於テ被害最モ多ク從フテ收量ハ該區最モ寡少ナリシニ第四區ノ收量首位ヲ占メ第二、第三兩區之ニ順次セリ

ハ、肥料反應試驗 (二ヶ年繼續)

反應ヲ異ニスル肥料配合法ヲ行ヒ之ヲ白菜ニ施用シ以テ其生育收量、病害等ニ及ボス關係ヲ知ランガタメ酸性、中性、鹽基性ノ三區ニ別チ試驗シタルモ生育中故障ヲ生ジ完全ナル成績ヲ得ズ

二十一、菠薐草

品種試驗 (二ヶ年繼續)

内外種六品種ヲ蒐メ試驗セシニ反當三百貫匁以上ノ收量アリシハ日本種、「サボイリーブド」、「ノルフオータサボイ」等ニシテ「ビクトリヤ」ノ收量最モ尠少ナリ

二十二、蠶豆

品種試驗 (一ヶ年)

蔬菜用軟實ヲ得ンタメ早生、大蠶豆、一寸ノ三種ニツキ試驗シタル結果大蠶豆ノ收量最モ饒多ニシテ一寸之ニ次ギ早生最モ劣レリ

二十三、草 苺

品種試驗 (二ヶ年繼續)

七品種ニ就キ試驗セシニ收量ノ最多ナリシハ「ビルモラン」ニシテ「ビクトリヤ」、「ジョンヌスアーリー」、「サージョセフバックストン」等之ニ順次シ「レーテストオブオール」ノ收量最下位ニアリ而シテ品質ニ於テハ「サージョセフバックストン」最上位ニ在リテ「レーテストオブオール」之ニ亞ギ「ジョンヌスアーリー」最低位ニ下ルガ如シ

右ノ外薑、塘蒿、花椰菜、畝冬、豌豆、萵苣、韭葱、薯蕷野蜀葵、卷丹、土當歸、萵蒿、恭菜、大芥菜、小松菜、二年子大根等ノ試作ヲ行ヘリ

促成栽培ハ菜豆、胡瓜、草苺、野蜀葵、土當歸、萵苣、根芋等ニ就テ實施セリ

花卉ハ春秋播五十餘種宿根植物及球根類其他常綠植物等三十餘種ヲ栽培シ傍ラ種子及幼苗ヲ配付シタリ

第二 水稻原々種栽培

前年ニ繼續シ各都市ニ配付スベキ水稻原々種ヲ採種センガタメ東茨城郡大場村、西茨城縣西那珂村、久

慈郡西小澤村、新治郡眞鍋町ニ各一反歩結城郡石下町ニ二反歩ノ原々種田ヲ設置シ常豊、石白、愛國、關取、玉錦ヲ栽培シ本場内ニ信州金子、早稻高津、上總コボシ、藤早稻、荒木、大場、勿來、國益、中稻神力、合計十四種ヲ栽培セリ而シテ耕種法ハ全部一本植トナシ出穂期ヨリ成熟期ニ至ル迄仔細ニ其特徵ヲ調査シ變種及異品種ハ之ヲ拔キ去リ收穫調製等ニ至ル迄充分ナル注意ヲ拂ヒ純良ナル種子ノ採收ニ努メタリ今以上ノ原々種ノ收量ヲ品種別ニ示セバ左ノ如シ

信州金子	一石四斗二升	早稻高津	二斗三升五合
上總コボレ	三斗六升	大場	八斗二升五合
石白	二石一斗	藤早稻	三斗
常豊	七石二斗二升	愛國	三石六斗五升
玉錦	三石三斗二升五合	關取	三石八斗八升
勿來	八斗五升	荒木	五斗
國益	一石二斗	中稻神力	一石二斗五升
合計	二十七石二斗一升五合		

第三 麥 模範 範 作

地方當業者ニ栽培法ノ模範ヲ示スト共ニ收穫シタル種子ヲ各郡農會及ビ一般農家ニ配付センガタメ縣

下三箇所ニ麥模範作ヲ行ヘリ其位置及ビ栽培セシ品種名並ニ收量左ノ如シ

- 那珂郡勝田村大字三反田(一反歩)大麥關取 二、五〇〇
- 全 郡 全 村大字勝倉(一反歩)小麥赤稈 一、七六〇
- 眞壁郡關本町 (一反歩)小麥赤稈 一、九〇〇

第四 果 樹 栽 培 試 驗

各種果樹ノ適否ヲ試驗スルト共ニ栽培方法ヲ實地ニ示サンガ爲メ明治四十四年度ニ於テ左ノ如ク縣下四ヶ所ニ果樹試驗地ヲ設置シ重要ナル管理ハ場員ヲ派シテ之ヲ監督セシメタリ本年度ハ栽培年數僅ニ三年ナルモ發育頗ル良好ニシテ桃、密柑、梨ハ多少其收穫ヲ見ルニ至レリ

- 一、東茨城郡上大野村大字吉沼 反別二反八畝八歩

栽 植 樹 種

梨。廿世紀、晚三吉、赤龍、早生赤、明月、眞鍮、今村秋、獨乙

洋梨。バートレット、ビバリー、ウインターバートレット、デユツセスダングレーム

桃。上海水密、アークローフオールド、アムスデンデューン

無花果。ホワイトゼノア、カリフォルニアブラツク

杏。ローヤル

櫻桃。ブラックタータリアン、アーリーリッツチモンド

苹果。君ガ袖、紅玉

李。寺田

葡萄。甲州、ハートフォールドプロリフィック、グリーンマウンテン

二、多賀郡關本村大字福田 反別一反七畝十一歩

栽 植 樹 種

洋梨。バートレット、デュッセスタングレーム、ウインターバートレット

梨。獨乙、早生赤、今村秋

櫻桃。ナボレオンビガロー、メーデューク

桃。アレキサンダー、土用水密、上海水密

苹果。紅魁、君ガ袖

無花果。ブラオンターキー

枇杷。田中

杏。ローヤル

葡萄。グリーンマウンテン、ハイランド

三、行方郡麻生町大字麻生 反別二反二畝二十九歩

栽 植 樹 種

桃。スニード、ミューア、離核水密、アーリークロフォールド

梨。長十郎、晚三吉

枇杷。田中、茂木

無花果。ブラオンターキー、カリフォルニアブラック、ホワイトゼノア

柿。富有、天神御所、衣紋

葡萄。甲州、ハートフォールドプロリフィック

柑橘。温州、夏橙、ワシントンネーブル、トムソンネーブル

四、筑波郡田井村大字白井 反別三反歩

栽 植 樹 種

洋梨。バートレット、ビバリー

桃。トライアンフ、アーリークローフォールド。上海水密

櫻桃。アーリーリッツチモンド、ナボレオンビガロー

李。寺田

苹果。中成子、紅魁

葡萄。ハイランド、甲州

柿。富有、天神御所、次郎、衣衣

柑橘。温州、ワシントンネーブル、トムソンネーブル、夏橙

第五調査

(一) 稻ノ二化螟蟲ニ關スル調査

一、發蛾時期調査

五月一日ヨリ誘蛾燈ヲ點ジ之ニ集來セル蛾數ヲ調査シタルモノニシテ第一回ハ五月十二日ニ發生シ全月下句ヨリ六月上旬ヲ最盛トシ以後次第ニ其數ヲ減ジ七月十二日ニ至リテ止ム第二回ハ八月六日ニ發生シ全月中句乃至下旬ヲ最盛期トナシ九月八日ニ至リテ終ヲ告ゲタリ

二、加害時期調査

六月十五日ニ移植シタル愛國一畝歩ニ就キ五日目毎ニ被害莖及ビ之ニ存在スル虫數ヲ調査シタル結果第一回發生ニ於テ被害莖最モ多キハ七月二十日ノ六百二十九本ニシテ存在蟲數ニアリテハ七月十日ノ百六十六頭最モ多シ第二回發生ニ於テ被害莖最モ多キハ三百四十本ニシテ存在蟲數ニアリテハ八月二十九日ノ九百七十六頭最モ多シ

三、第二回螟蟲發生狀況調査

第一期白穂ノ出現シタル當時(九月三日)第二期白穂ノ全部出現シタル當時(九月八日)第三期白穂ノ全部出現シテ二週間ヲ經過シタル時(九月二十三日)ノ三期ニ分チ愛國外二種ニ就キ調査シタル結果被害莖一本中ニ存在スル平均蟲數最モ多キハ第一期ノ二十頭三分八厘ニシテ第二期ノ十四頭三厘之ニ次キ第三期ノ二頭二分二厘最モ少シ

四、越冬狀況調査

玉錦十歩ヲ二寸五分ノ高サニ刈リ取り株及藁中ニ存在スル螟蟲數ヲ調査シタル結果株中ニハ三百五十

四頭ニシテ彙中ニハ二百六十頭ナリ

(二) 水稻減收原因調査

本年度稻作期間ニ於ケル氣候ハ頗ル不順ニシテ之レガ爲メニ本縣下ニアリテモ一般ノ作況良好ナラズ
往々秋收ノ全カラザルモノアリタリ之レニ關シ西茨城、新治、多賀ノ三郡ニ於テ調査シタル結果其作
況不良ナルモノ、原因ハ獨リ不順ナル氣候ナミナラズ大ニ耕種法ノ良否ニ關係アル事實ヲ認メタリ

(三) 特種作物ノ調査

本縣下ニ於ケル重要ナル特種作物中煙草、茶、落花生、甘藷ニ就キ其來歴、栽培法、加工法、收支計
算等ヲ調査セリ

第六講 習

(一) 普通農事講習

期日	開設地	修了者
自大正二年七月五日 至全 年七月十四日	鹿島郡 輕野村	三五人
自大正二年七月十九日 至全 年七月廿八日	筑波郡 小田村	五四
自大正二年八月七日 至全 年八月十六日	眞壁郡 古里村	七二
自大正二年八月廿八日 至全 年九月六日	多賀郡北中郷村	九七
自大正二年九月十一日 至全 年九月廿一日	那珂郡 窪郷村	二五
自大正二年九月廿九日 至全 年十月九日	東茨城郡堅倉村	二七
自大正二年十一月十一日 至全 年十一月廿一日	行方郡 麻生町	二五
計	五八三人	

期日	開設地	修了者
自大正二年十二月十六日 至全 年十二月二十五日	北相馬郡菅生村	二三人
自大正三年一月十七日 至全 年一月廿六日	稻敷郡 舟島村	二四
自大正三年二月六日 至全 年二月十六日	新治郡斗利出村	六九
自大正三年二月廿八日 至全 年三月六日	西茨城郡 珂那村	四五
自大正三年三月九日 至全 年三月十九日	結城郡西豊田村	五七
自大正三年三月十九日 至全 年三月廿九日	久慈郡 依上村	三〇

(二) 園藝講習

期日	開設地	修了者
自大正二年七月二十一日 至全 年七月三十一日	結城郡大花羽村	三四人
自大正二年八月七日 至全 年八月十七日	新治郡 眞鍋町	四二
自大正二年十一月廿二日 至全 年十一月廿二日	眞壁郡 眞壁町	七〇
自大正二年十二月廿六日 至全 年十二月廿六日	那珂郡 野口村	四三
自大正三年一月十六日 至全 年一月十六日	新治郡 中家村	二五
計	四〇一人	

期日	開設地	修了者
自大正三年一月十四日 至全 年一月十九日	稻敷郡 根本村	二八
自大正三年二月九日 至全 年二月十九日	猿島郡 香取村	四六
自大正三年三月十四日 至全 年三月十八日	東茨城郡飯富村	四八
自大正三年三月二十日 至全 年三月二十四日	鹿島郡 鹿島町	三八
自大正三年三月九日 至全 年三月十九日	久慈郡 太子町	二七

第七 野鼠驅除

郡市名	町村數	夏季驅除反別	冬季驅除反別	計
東茨城郡	一七	一五〇,〇〇〇	四,一六〇,〇〇〇	四,二六〇,〇〇〇
西茨城郡	五	一〇五,〇〇〇	七三,〇〇〇	八二八,〇〇〇
那珂郡	二	五三,〇〇〇	三,七一〇,〇〇〇	四,二四六,〇〇〇
久慈郡	二	四八,七〇〇	一,五六三,〇〇〇	二,〇四八,七〇〇
多賀郡	一	—	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇
鹿島郡	三	三〇,〇〇〇	五二,五〇〇	五五二,五〇〇
行方郡	九	六五,〇〇〇	六〇八,五〇〇	一,二二三,五〇〇
新治郡	二	五八七,八〇〇	二,六〇四,三〇〇	三,一九三,〇〇〇
筑波郡	七	四二,一〇〇	八四八,三〇〇	八四八,三〇〇
眞壁郡	二	二,九四〇,〇〇〇	一,五〇九,八〇〇	一,九六一,九〇〇
結城郡	六	一,五九一,〇〇〇	四,九三〇,九〇〇	七,八七二,二〇〇
猿島郡	三	—	四,九七六,〇〇〇	六,一六七,〇〇〇
北相馬郡	九	二八七,〇〇〇	五,四〇〇,九〇〇	五,四〇〇,九〇〇
計	三七	七,七〇,七〇〇	三二,四〇,二八〇	四〇,〇一〇,九八〇

第八 種苗配付

水 稻 十七石二斗五升四合
内原々種トシテ各郡へ配付セシモノ左ノ如シ

郡別	信州金子	早稲高津	大場	石白	上總早稲	荒木	關取	玉錦	常豊	勿來	國益	中稲神力	愛國	合計
東茨城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二,〇〇〇
西茨城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一五〇
那珂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三,四〇〇
久慈	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二,〇〇〇
多賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二,〇〇〇
鹿島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,七五〇
行方	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,六〇〇
新治	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,七五〇
筑波	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,八〇〇
眞壁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一〇〇
結城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一〇〇
猿島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一〇〇
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一〇〇

北相馬		合計	
陸稻	三五二	陸稻	三五二
大麥	三〇三三	大麥	三〇三三
小麥	二、八六五	小麥	二、八六五
裸麥	〇一〇	裸麥	〇一〇
大豆	二四〇	大豆	二四〇
小豆	〇〇二	小豆	〇〇二
油菜	〇〇五	油菜	〇〇五
苜蓿	〇八〇	苜蓿	〇八〇
梨	五五五	梨	五五五
桃	五三二	桃	五三二
柿	四一五	柿	四一五
葡萄	一六八	葡萄	一六八
無花果	一六〇	無花果	一六〇
枇杷	四五	枇杷	四五
苹果	四〇	苹果	四〇
李	一三	李	一三
櫻桃	一一	櫻桃	一一
大豆	二一〇	大豆	二一〇
小麥	一〇〇	小麥	一〇〇
水稲	一四七〇	水稲	一四七〇
陸稻	〇五〇	陸稻	〇五〇
大麥	一一〇	大麥	一一〇

右ノ外一般ノ希望ニ應ジ相當代價ヲ以テ拂下ゲタル種子次ノ如シ

本年度ニ於テ肥料其他ヲ分析鑑定シタル成績左ノ如シ

第九分折

(一) 分析件數及成分數

種別	件數	成分數
場用分析	四九	一〇三
依頼分析 (手数料ヲ收メタルモノ)	二四	五二
計	八〇	一五五
場用分析	四九	一〇三
依頼分析 (無手数料ノモノ)	二四	五二
計	七三	一五五

之ヲ前年度ニ比スレバ場用分析數減ジテ依頼分析數增加セリ而シテ總件數ハ前年度ヨリ七件ヲ減ジタリ

(二) 供試品ノ種類及件數

種別	件數	種類	件數
肥料	一四	其他	四
土壤	七	其他	四
農產物	二四	其他	四九
計	四四	計	一〇四
計	九八	計	一五三

之ヲ前年度ニ比スレバ肥料ノ件數減ジテ農產物ノ件數増加シタリ

(三) 肥料ノ種類及件數

品名	件数	品名	件数	品名	件数
過磷酸	三	動物室素	四	乾谷乾糞	一
石灰室素	一	魚腸米糠肥料	二	製糖殘滓骨炭末	一
硫酸加里	一	魚腸米糠肥料	二	堆肥	一
配合肥料	二	魚腸米糠肥料	二	煙草灰	一
粉末魚粕	四	大豆粕	七	煙草灰	一
タンケーシ入魚粕	四	油粕類	一〇	燒炭肥料	一
肉骨粉	六	米糠	四	其他	一
濠洲肥料	一	蒸製蹄角粉	一	計	八
肉粕粉末肥料	六	草粉	一		二

肥料ノ分析總件數ハ百十二ニシテ種別件數ハ配合肥料最モ多ク堆肥及ビ油粕類之ニ次グリ而シテ各種肥料ノ内品質不良ナリシモノタンケーシ入魚粕二件配合肥料二件過燐酸一件其他品質著シク劣リ殆ン不正品ニ近キ製糖殘滓骨炭末一件菜種油粕ニ擬造シタル米糠一件ラムネ製造滓ト稱スル肥料分ノ微量ヲ含ムニ過ギザルモノ一件アリタリ

第十雜

(一) 印刷物配付

要件	回数	延日数	要件	回数	延日数
農事試驗成績十五報	十六報	一、二〇〇	肥料ノ話	六	六八〇
全	十六報	九八〇	肥料購入上ノ注意	七	七五〇
大正元年度業務功程		四九〇	肥料分析表	九	九〇〇
稻作試驗成績要報		三〇〇	果樹ノ作り方	六	六九〇
蔬菜試驗成績		一七五	花卉ノ作り方	一	一〇〇
稻作要綱		三一五	蔬菜栽培一覽表	九	九五〇
綠肥要說		九〇	野鼠とチブス菌	三	三一〇
堆肥要說		五五〇			
(二) 文書往復			(三) 場員出張		
收受	二、三三三件		發遣	八三八件	
講習	三五	二四〇	會議打合せ	一七	三三
講	三一	五〇	實地指導	一一	二二
調查及視察	一八	六五	麥採種場監督	二〇	三六
原々種田監督	六六	九四	管外出張	一	八
果樹試驗地監督	二〇	四七	計	二四二	六五六
審査	二三	六一			

(四) 質問應答件數

肥料ニ關スル件 五八
普通作物ニ關スル件 二八
農具ニ關スル件 一一
果樹ニ關スル件 一〇
堆肥舍ニ關スル件 三

三〇

蔬菜ニ關スル件 二〇
病蟲害ニ關スル件 一五
蒭蕪ニ關スル件 二
其他 二八
計 一七五

(五) 參觀人

三六四三人

(六) 練習生

茨城縣那珂郡川田村
全 縣鹿島郡白鳥村
全 縣行方郡津澄村

磯崎昇一
下河邊精一郎
方波見弘

茨城縣新治郡志筑村 市ノ澤好光
大正二年四月六日 入場
大正三年三月三十一日 修了退場

(七) 職員

場長

技師 (兼任)

全

本田菊吉

全

笠間治三郎

全

佐藤逸策

全

廣江元治

技手

岡崎義明

全

野澤芳

全

安資農夫

全

井坂四郎

全 (兼任)

田中友右衛門

全

朝倉竹三郎

全

守屋孝靜

書記

中崎源之介

森谷平八郎

14.21
325

大正三年五月二十日印刷
大正三年五月廿三日發行

茨城縣立農事試驗場

(東茨城郡酒門村)

印刷者 吉田政男

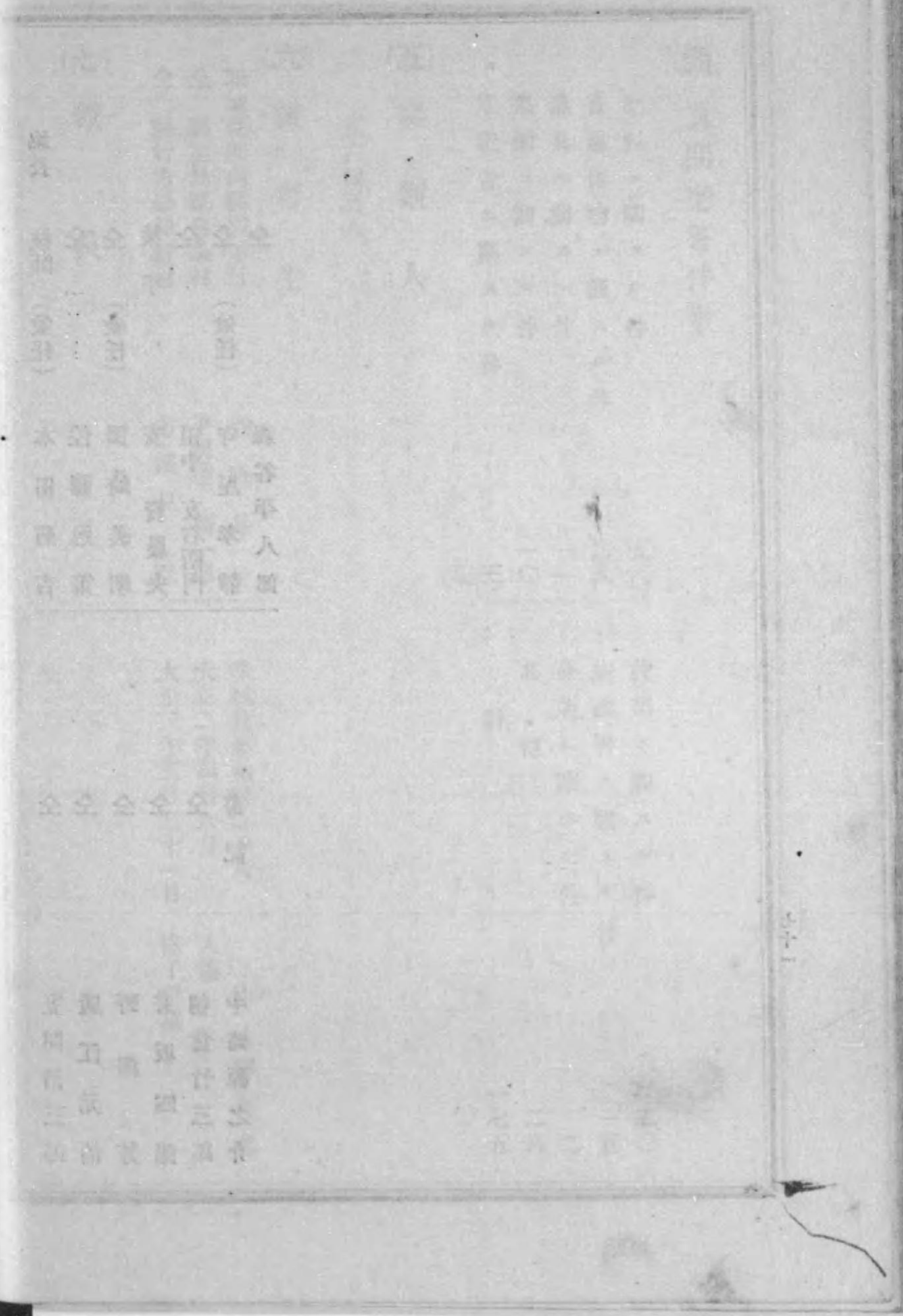
茨城縣水戸市大字常磐神崎六十五番地

茨城縣水戸市上市泉町千百〇四番地

印刷所 合名加納印刷所

會社

(電話四九番)



終

11
12